

二〇二五年度 早稲田大学大学院教育学研究科
博士後期課程 一般・外国学生入学試験問題 「資料解読」
【教科教育学専攻（国語科教育学・国語科内容学）】

解答上の注意

一、教科教育学専攻（国語科教育学・国語科内容学）の入学試験問題は、出願時に届け出た指導教員の欄に従い、左記の表の解答すべき問題を解答しなさい。

志願票に記入した 研究指導名	志願票に記入した 指導希望教員名	解答すべき問題・ページ	必要な 解答用紙 枚数
国語科内容学研究指導	松本 正恵	一 日本語学（P. 2～4）	一枚
国語科内容学研究指導	松本 直樹	二 古典文学 I 上代文学（P. 5）	一枚
国語科内容学研究指導	海野 圭介	三 古典文学 III 中世文学（P. 6）	一枚
国語科内容学研究指導	内山 精也	四 中国古典文学（P. 7～8）	一枚
国語科内容学研究指導	五味渕 典嗣	五 近代文学（P. 9～10）	一枚
国語科内容学研究指導	和田 敦彦		

二、解答用紙の所定欄に受験番号・氏名・研究指導名・指導教員名を必ず記入すること。

三、解答の際には、問題番号、設問番号を記入してから解答すること。（例「問題一―問二」等）

四、解答すべき問題以外を解答した場合、当該解答は「0点」となります。

五、問題用紙は「10枚」（本ページ含む）です。

以上

博士後期課程 入学試験問題

科目名 資料解説 (国語科教育学・国語科内容学)

日本語学(含日本語教育)

次の文章は、仁田義雄『国語問題と日本語文法研究史』(ひつじ書房二〇二二)の中で、江戸時代の研究史について記述した箇所の一部である。これを読んで、後の問に答えなさい。

『あゆひ抄』は、助詞・助動詞などを中心に、接尾辞を加え、下位分類を施しながら、その意味・用法について説明を加えたものである。(中略)

また、『かざし抄』の序で、

挿 脚 名 装 脚 名 装 脚 挿 脚 名 装 脚
いつととも月みぬ秋はなきものをわきてこよひのめつらしき哉

と一首を分解している。自らの設定した単語分類で具体的に一首を分解し切っている点は注目すべきである。

かしらにかざしあり。身によそひあり。しもつかたにあゆひあるは、… (『かざし抄』)

と述べていることから分かるように、この四類は、相互の接続関係やその文法機能への注目のもとに切り出されており、語の文法的な分類として注目すべきものである。(次ページ図1)

さらに、装については、『あゆひ抄』のおほむねに装図を挙げ、用言の語形変化と用言の下位類化を示している。それによれば、装は、「事」(動詞)と「状」(形容詞・形容動詞)に分けられ、さらに「事」は、狭義の「事」(ラ変以外の動詞)と「孔」(ラ変動詞)に、「状」は、「在状」(形容動詞)と「芝状」(ク活用形容詞)と「鋪状」(シク活用形容詞)に分けられている。

成章の研究は、極めて優れたものであったが、用語の難解さもあって、後世に十分受け継がれなかった。かえって、隔世的に山田孝雄の「体言・用言・副詞・助詞」の四分類観などに影響を与えている。

4.2.5 鈴木胤

活用研究において宣長を発展させた者に、鈴木胤(宝暦14(1764)～天保8(1837))がいる。胤は尾張藩に仕えた儒学者であるが、また宣長の門に入り、国学者として日本語研究にも優れた業績を残した人である。

『活語断続譜』(かつごだんぞくよ) (享和3(1803)頃成)は、当時出版されず、幕末になって「柳園叢書」に後人の書き入れとともに刊行された。この書は、宣長の『御国詞活用抄』『てにをは紐鏡』を基礎にして、それらを発展させ、用言の切れ続きといった語形変化を明らかにしたもので、春庭の『詞八衢』成立の一つの契機を成したものである。

4.2.3 てにをは係辞弁

係り結びの研究は、宣長において一つの到達点を見る。以後、宣長の部分的修正・部分的発展といったものがいくつか出る。宣長においては未だ明確な名づけが行われていなかった係りのテニヲハに対して、「係辞」と呼び、係りのテニヲハと結びのテニヲハとの相関・呼応の現象に「係結」という名を与えたのが、萩原広道の『てにをは係辞弁』(弘化3(1846)成、嘉永2(1849)刊)である。「係結」はそのまま現在の文法用語になっているし、「係辞」は山田孝雄の「係助詞」に受け継がれている。

また、宣長の誤りを正し、「の・何」を係辞から除き、「か」を加えた。広道の係辞は、「徒」「ぞ・や・か」「こそ」になる。宣長の誤りを明確に指摘・証明したのは、彼の功績である。

ただ、広道は、宣長の「は・も」をも一つにひとまとめにし、「徒」にしている。彼の言う「徒」には、「は・も・て・に・を・の・ば・ど・で・より・まで・へ」が含まれる。これは、係り結びを、係りによる結びの三態といった形態的呼応において捉え、「は・も」の類と他の類との連用機能の違いを無視した結果である。係り結びの現象への認識の深化からすれば、これには問題が残る。

4.2.4 富士谷成章

歌学にも優れ、兄に漢学者皆川淇園を持つ富士谷成章(元文3(1738)～安永8(1779))は、江戸最大の文法理論家である。彼の著作には、『かざし抄』(明和4(1767)成、刊記なし)や『あゆひ抄』(安永2(1773)成、安永7(1778)刊)がある。また、稿本ではあるが『よそひ本抄』、写本の『六運略図』の存在が知られている。

成章は、概略、語に当たるものを「名・装・挿頭・脚結」に四分し、その本性を、

名をもて物をことわり、装をもて事をさだめ、挿頭脚結をもてことばをたすく。(『あゆひ抄』おほむね)

と述べている。「名」は体言に、「装」は用言に、概略、「挿頭」は感動詞・代名詞・副詞・接続詞・接頭辞などに、「脚結」は助詞・助動詞・接尾辞に対応する。

『かざし抄』では、感動詞(「あはれ、あな、やよ、…」)や代名詞(「いづれ、こい、なれ、…」)や副詞(「いと、かく、つねに、…」)や接続詞(「かつ、さて、さりとて、…」)などの、ほぼ(X)に当たるものを中心に、さらに複合的形式(「いかにして、いまさら、かくばかり、…」)などを加え、その意味・用法を説明している。

博士後期課程 入学試験問題

科目名 資料解説 (国語科教育学・国語科内容学)

4.2.7 富樫広隆

本居学派の単語分類・活用研究の組織化・体系化を計った者に富樫広隆(寛政5(1793)~明治6(1873))がいる。広隆には、用言の類別、用言の活用の様、係り結びのあり方などを一枚の図にした『辞玉釋』(文政12(1829)刊)や、それを解説した『詞玉橋』(文政9(1826)初稿、明治24(1891)刊)などがある。広隆は、単語を「言」「詞」「辞」に三分類する。これは、中世の「体(物の名)、用(詞)、テニヲハ」以来の伝統を受け継ぐものである。また辞は、活用の有無から「静辞(今の助詞)」「動辞(今の助動詞)」に分けられている。詞は、「説動用詞(今の動詞)」「説容体詞(今の形容詞)」に分けられ、説動用詞は、さらに五種に分けられている。ラ変動詞が「変格詞」の名で動詞の一類として取り出されていることは注目してよい。

ラ変は、

さらに、後の山田孝雄では、動詞からも形容詞からも分けられ、(Y)として取り出されている。

4.2.6 本居春庭・東条義門

宣長の活用研究をさらに推し進めた者に、宣長の長子である本居春庭(宝暦13(1763)~文政11(1828))や真宗の僧である東条義門(天明6(1786)~天保14(1843))がいる。

春庭には、活用研究を大成させた『詞八衢』(文化5(1808)刊)や『詞通路』(文政11(1828)成、刊年未詳)がある。『詞通路』は、動詞を、自他や受身・使役の別から、「おのづから然る・みずから然する」「乾く、落つる、苦しむ、聞こゆる」など)、「物を然する」「乾かす、着る、聞く、さとる」など)、「他に然する」「着する、聞かする、論す」など)、「他に然さする」「着せさする、苦しめさする、聞こえさする」など)、「おのづから然せらる」「驚かるゝ、着らるゝ、聞かるゝ」など)、「他に然せらるゝ」「落とさるゝ、苦しめらるゝ、論さるゝ」など)の六種に分けたもので、注目される。

義門には、活用にかかわる研究書として『山口葉』(天保7(1836)刊)、『活語指南』(天保15(1843)刊)テニヲハおよび活用にかかわるものとして『友鏡』(文政6(1823)刊)、『和語説略図』(天保4(1833)刊)や音韻研究の書である『勇信』(天保13(1842)刊)など多くのものがある。『活語指南』では、現在の名称に直接的に繋がる「将然言(未然言とも)」「連用言」「截断言」「連体言」「已然言」「希求言」といった名称を挙げていて注目される。活用研究は、義門に至って一つの到着点を見る。

また、鈴木胤には、語の分類について述べた『言語四種論』(享和3(1803)頃草稿成、文政7(1824)刊)という注目すべき書がある。語は、「体ノ詞」「形状ノ詞」「作用ノ詞」「テニヲハ」の四種に分けられている。体ノ詞は、万の名目を表す詞とされ、今の体言に当たる。形状ノ詞は、イの音で終わり、物事の有様・形状を表すものとされ、概略、形容詞に対応する。作用ノ詞は、ウの音で終わり、人や物の動き・働き・作用を表すものとされ、概略、動詞に当たる。ラ変動詞の「有り」が形状ノ詞とされているのは注目してよい。これは、成章や春庭・義門・富樫広隆とは異なっている。また、胤の単語分類は、四分類ではあるが、成章のそれとは異なっており、基本的には中古・中世以来の伝統および宣長を受け継ぐところの、次のような二分法である。



彼に限らず、この種の単語分類では、テニヲハに雑多なものが入り過ぎる。特に(X)の位置づけに問題が残ろう。この辺りが、富士谷成章と本居宣長や鈴木胤などとの違いである。

詞とテニヲハについては、

三種ノ詞ハサス所アリ。テニヲハハサス所ナシ。三種ハ詞ニシテ、テニヲハハ声ナリ。三種ハ物事ヲサシアラハシテ詞トナリ。テニヲハハ其詞ニツケル心ノ声也。詞ハ玉ノ如ク、テニヲハハ緒ノゴトシ。詞ハ器物ノ如ク、テニヲハハ其ヲ使ヒ動カス手ノ如シ。…。詞ハテニヲハナラデハ働カズ、テニヲハハ詞ナラデハツク所ナシ。(『言語四種論』)

と述べており、詞とテニヲハの異なりを捉えたものとして、後に時枝誠記の詞辞論に影響を与えるところとなる。

また、言語の起源を音声模写の面から述べた『雅語音声考』(文化13(1816)刊)がある。

※この部分は、著作権の関係により掲載ができません。

博士後期課程 入学試験問題

科目名 資料解読 (国語科教育学・国語科内容学)

問(1) 下線部①について、「は・も」類と他の類(「て・に・を・の…」等)との、助詞としての連用機能の違いを説明しなさい。

問(2) 文中に二カ所ある(X)、及び、文章末にある(Y)に入れるのにふさわしい品詞名(現代の学校文法で用いられる品詞名とは異なる)をそれぞれ書きなさい。(なお、二カ所の X には同じ用語が入る。)

問(3) 和歌一首を分解した単語分類の中で、

②

③

は同じ「装」と分類されているが、それぞれの単語は、②は「み」、③は「なき」である。両者の終止形を示したうえで、それらの性質の違いを説明しなさい。

問(4) 下線部④について、富士谷成章が「事(「ラ変以外の動詞)」と「孔(「ラ変動詞)」とに分けたのはなぜだと思うか。前ページに掲載した「図1 安永七年刊本「おほむね」の「装図」を参考にして答えなさい。

問(5) 下線部⑤で「注目してよい」と評価しているが、それがなぜ評価されるに値することなのか、説明しなさい。

問(6) 下線部⑥とはどういうことか、具体的に説明しなさい。

問(7) 下線部⑦とあるが、「詞」と「テニヲハ」の異なりについて、上の『言語四種論』からの引用部分を参考にまとめるとともに、その影響を受けたとされる時枝誠記の詞辞論についても詳細を述べなさい。

問(8) 下線部⑧に書かれた動詞の六種について、現代の文法用語を用いながら説明し直しなさい。

問(9) 下線部⑨・⑩は、現代の学校文法では何と呼ばれているか、それぞれの名称を答えなさい。

問(10) 下線部⑪は、富樫広蔭のラ変動詞の捉え方だが、下線部④(富士谷成章の捉え方)・下線部⑤(鈴木胤の捉え方)とは異なる捉え方である。文中の「A」には、ラ変についての三者の捉え方の違いをまとめた文章が入る。「ラ変は、」に続ける形で、まとめの文章を自分なりに考えなさい。

(以上)

博士後期課程 入学試験問題

科目名 資料解説 (国語科教育学・国語科内容学)

二

古典文学Ⅰ (上代文学)

〔問題〕後の〔資料〕について、次の問一～問三に答えなさい。問いごとに番号を明示した上で解答する(110)。

問一、〔資料〕は何という文献の一部であるか、伝本名と作品名を、○○本『●●』(例・嘉禄本『古語拾遺』元暦校本『萬葉集』)という形で答え、作品の成立事情について論述しなさい。

問二、全文を意味の通る漢字仮名交じりの書き下し文にしなさい(適宜句読点を施すこと)。その際、時代や文体を考慮し、また誤字・脱字・衍字等が認められる場合には適切な形に改めること。

問三、傍線部①②の登場人物について、それぞれ知る所を述べなさい。

〔資料〕

村堅 右方梗里者大母令
令春桶於下鴨村散梗飛到於此里故日梗里有玉野村所以
者意美衣美二皇子等坐於坐裏裏志深里高宮遣山
部小緒誅国造許麻呂女娘日女令片是恨日女已依令訖
二皇子相辞不娶于日間根日女老長逝于時皇子等大氣
即遣八主勅云朝夕日不隱地造墓藏其骨以玉飾墓故
緣此登号玉丘其村号玉野

※WEB掲載に際し、左記のとおり出典を追記しております。

『天理図書館善本叢書和書之部1 古代史籍集』、八木書店、1972

天理大学附属天理図書館蔵

博士後期課程 入学試験問題

科目名 資料解読 (国語科教育学・国語科内容学)

Ⅲ 古典文学Ⅲ (中世文学)

次の資料を読んで後の問に答えなさい。

※この部分は、著作権の関係により掲載ができません。

問一 全文を改行位置、字配りはそのままに翻字しなさい。

問二 この作品の掲出部分に示される和歌二首をそれぞれ現代日本語に訳しなさい。

問三 この作品の掲出部分に示される「本」につき、それぞれの歴史的意義等に触れ、この作品の著者の「本」に対する態度や立場などについて説明しなさい。

問四 この作品の著された時期の歌道家の関係性や人的配置、書物の著述などを含む歌壇の状況を踏まえて、この作品の成立事情について説明しなさい。

博士後期課程 入学試験問題

科目名 資料解説 (国語科教育学・国語科内容学)

四

中国古典文学

次の文は『四庫全書総目提要』の『誠齋集』の提要である。この文を読み、後の設問に答えなさい。

宋楊萬里撰。萬里有誠齋易傳、已著錄。此集則嘉定元年、其子長孺所編也。萬里立朝多大節、若乞留張栻力爭呂頤浩等配享、及災變應詔諸奏、今具載集中、丰采猶可想見。然其生平、乃特以詩擅名。有江湖集七卷、荊溪集五卷、西歸集二卷、南海集四卷、朝天集六卷、江西道院集二卷、朝天續集四卷、江東集五卷、退休集七卷、今併在集中。方回瀛奎律髓、稱其^A一官一集、每集必變一格。雖沿江西詩派之末流、不免有頹唐麤俚之處。而才思健拔、包孕富有、自爲南宋一作手。非後來四靈江湖諸派、可得而竝稱。周必大嘗跋其詩曰、誠齋大篇短章、七步而成、一字不改、皆掃千軍倒三峽、穿天心出月脅之語。至於狀物姿態、寫人情意、則鋪敘纖悉、曲盡其妙、筆端有口、句中有眼云云。是亦細大不捐、雅俗竝陳之一證也。南宋詩集、傳於今者、惟萬里及陸游最富。游晚年隳節、爲韓侂胄作南園記、得除從官。萬里寄詩規之、有不應李杜翻鯨海、更羨夔龍集鳳池句。羅大經鶴林玉露、嘗記其事。^D以詩品論、萬里不及游之鍛鍊工細。以人品論、則萬里侔乎遠矣。其集卷帙繁重、久無刻版。故傳寫往往譌脫。考岳珂程史。記朝天續集韓信廟詩、淮陰未必減文成句、麻沙刻本、譌文成爲宣成、則當時已多誤本。^E今核正其可考者、凡疑不能明者、可姑闕焉。

注 麤……「粗」に同じ。隳……毀壞、廢棄。

〔設問〕は、次のページ

博士後期課程 入学試験問題

科目名 資料解読 (国語科教育学・国語科内容学)

〔設問一〕 傍線A「其一官……而竝稱」を書き下し文に改めよ。

〔設問二〕 傍線B「誠齋大篇……句中有眼」を現代日本語に訳せ。

〔設問三〕 傍線C「不應……鳳池」を、

①書き下し文に改めよ。

②楊万里が陸游に対して言おうとした主旨はどういうことか、説明せよ。

〔設問四〕 傍線D「以詩品……遠矣」とはどういう意味か、簡潔に説明せよ。

〔設問五〕 傍線E「今核……闕焉」を、

①書き下し文に改めよ。

②現代日本語に訳せ。

〔設問六〕 楊万里の中国詩学史上の功績について、知るところを記せ。

以上

博士後期課程 入学試験問題

科目名 資料解読 (国語科教育学・国語科内容学)

五 近代文学

一、次に示すのは、太宰治の短編「千代女」(『改造』一九四一年六月)の一節である。文章を読み、後の問いに答えなさい。

それから十日ほど経つたら、また仔細らしい顔つきをして、家へおいでになつて、さて、それでは少しづつ、綴方の基本練習をはじめませうね、とおつしやつたので、私は、まごついてしまひました。後でわかつた事です、澤田先生は、小學校で生徒の受験勉強の事から、問題を起し、やめさせられ、それから、くらしが思ふやうに行かず、昔の教へ子の家を歴訪しては無理矢理、家庭教師みたいな形になりすまし、生活の方便にしていらつしやつたといふやうな具合ひなでした。お正月においでになつて、その後すぐに私の母へ、こつそりお手紙を寄こした様子で、私の文才とやらいふものを褒めちぎり、また、そのころ起つた綴方の流行、天才少女とかの出現などを例に擧げて、母をそのかし、母もまた以前から、私の綴方には未練があつたものですから、それでは一週にいちどくらゐ家庭教師としておいで下さるやうにと御返事して、父には、澤田先生のおくらしを、少しでもお助けするためです、と言ひ張つて、父も、澤田先生は昔の和子の先生ですから、それはいけないとも言へなかつた様子で、しぶしぶ澤田先生をお迎へするといふやうな事情だつたらしいのでございます。澤田先生は、土曜日毎にお見えになり、私の勉強室でひそひそ、なんとも馬鹿らしい事ばかりおつしやるので、私は、いやでなりません。文章といふものは、第一に、てにをはの使用を確實にしなければならぬ、等と當り前の事を、一大事のやうに繰り返し繰り返しておつしやつて、太郎は庭を遊ぶといふのは、あやまり。太郎は庭へ遊ぶといふのも、やつぱり、あやまり。太郎は庭にて遊ぶといふはなければいけないのださうで、私が、くすくす笑ふと、とても、うらめしさうな目つきで、私の顔を穴のあくほど見つめて、ほうと溜息をつき、あなたには誠實が不足してゐる、いかに才能が豊富でも、人間には誠實がなければ、何事に於いても成功しない、あなたは寺田まさ子といふ天才少女を知つてゐますか、あの人は、貧しい生れで、勉強したくても本一冊買へなかつたほど、不自由な氣の毒な身の上であつた、けれども誠實だけはあつた、先生の教へをよく守つた、それゆゑ、あれほどの名作を完成できたのです、教へる先生にしても、どんなに張り合ひのあつた事でせう、あなたに、もうすこし誠實といふものがあつたならば、僕だつて、あなたを寺田まさ子さんくらゐには仕上げて見せます、いや、あなたは環境にめぐまれてゐるし、もつと大きな文章家に仕上げる事が出来るのです、僕は、寺田まさ子さんの先生よりも或る點で進歩してゐるつもりです、それは徳育といふ點であります、あなたは、ルソオといふ人を知つてゐますか、ジャン・ジャック・ルソオ、西暦千六百、いや、西暦千七百、千九百、笑ひなさい、うんと笑ひなさい、あなたは自分の才能にたよりすぎて、師を輕蔑してゐるので、むかし支那に顔回といふ人物がありました、等といろんな事を言ひ出して一時間くらゐ経つと、けろりとして、また此の次の事にしませうと言つて私の勉強室から出て行かれ、茶の間で母と世間話をなさつて歸ります。小學校の時に、多少でもお世話になつた先生の事を、とやかく申し上げるのは悪い事です、本當に、澤田先生は、ぼけていらつしやるのしか私には思へませんでした。

問一 本文の語り、表現上の特徴とその役割について論じなさい。
問二 本文で描かれている内容、題材と、問一で論じた表現上の特徴との関係について、自身の考えを述べなさい。

博士後期課程 入学試験問題

科目名 資料解読 (国語科教育学・国語科内容学)

二、次に示す文章は、小林秀雄「私小説論」(一九三五)の一節である。文章を読み、後の問いに答えなさい。

マルクシズム文学が輸入されるに至って、作家等の日常生活に対する反抗はじめて決定的なものとなった。輸入されたものは文学的技法ではなく、社会的思想であつたという事は、言ってみれば当り前の事の様だが、作家の個人的技法のうちに解消し難い絶對的な普遍的な姿で、思想というものが文壇に輸入されたという事は、わが国近代小説が遭遇した新事件だったのであつて、この事件の新しさというものを置いて、つづいて起つた(一)「文学界の混乱」を説明し難いのである。

思想が各作家の独特な解釈を許さぬ絶對的な相を帯びていた時、そして実はこれこそ社会化した思想の本来の姿なのだが、新興文学者等は、その斬新な姿に酔わざるを得なかつた。当然批評の活動は作品を凌いで、創作指導の座に坐つた。この時ほど作家達が思想に頼り、理論を信じて制作しようと努めた事は無かつたが、またこの時ほど作家達が己れの肉体を無視した事もなかつた。彼等は、思想の内面化や肉体化を忘れたのではない。内面化したり肉体化したりするのにはあんまり非情に過ぎる思想の姿に酔つたのであつて、この陶醉のなかつたところにこの文学運動の意義があつた筈はない。

彼等は単に既成作家等や既成文壇を無視したばかりではない、自分等のなかにあらゆる既成的要素を無視した。これは結局、同じ行為であるが、こういう行為に際して、人は自分の表情を読み取り難い。しかし彼等は読み取り難いのを気に掛けなかつた、掛けたら彼等に行はるは不可能であつた。彼等は誤つていたか、いなかつたか。彼等は為さざるを得なかつた事を為したまでだ。

自然主義作家等がその反抗者等とともに、全力をあげて観察し解釈し表現した日常生活が、新しく現れた作家等によって否定されたのは、彼等が従来の日常生活を失つたからではなく、彼等の思想が、生活の概念を、日常性というものから歴史性というものに改変する事を教えたからである。彼等は改変された概念を通じてすべてのものを眺めた。眺める事は取捨する事であり、観察とは即ち清算を意味した。彼等は自己省察を忘れたのではない。省察に際して事毎に小市民性を暴露するが如き自己は、省察するに足りなかつたのである。感情も感覚も教養もこれを新しく発明しようとする冒険乃至は欺瞞を、清算という合言葉が隠した。

マルクシズム作家達が、己れの觀念的焦燥に気が附かなかつた、或は気が附きたがらなかつたのは、この主義が精妙な実証主義的思想に立っている事を信じたが為であり、その文学理論の政治政策化を疑わなかつたのは、この主義が又一方実践上の規範として文学的政治的指導権を主張していたが為だ。ここにプロレタリア文学とマルクシズム文学とは違ふという名論さえ起つた所以のものがあつたのは周知の事である。

彼等の信じた小説手法はリアリズムであつた。評家等は、彼等のリアリズムが所謂ブルジョア・リアリズムと異る、いや異らなくてはならぬ所以を力説したが、作家等には当然な事だが、人間学的人間と社会学的人間と區別して描く事はおろか、そんなものが見えた筈もなかつた。在来のリアリズムに反抗した大正期の作家達が、苦心經營した小説手法は悉く無視され、近代リアリズム誕生以来の手法であつた心理的手法すら、殆ど利用されない作品が氾濫した。農村を工場をと題材が豊富になるにつれて、手法は貧弱になつた。ここに作家実践上の公式主義を排すという名論が現れたのも周知の事だ。

しかしここにもどうしても忘れてはならない事がある。逆説的に聞えようと、これは本当の事だと僕は思っているが、それは彼等は自ら非難するに至つた、その公式主義によってこそ生きたのだという事だ。理論は本来公式的なものである、思想は普遍的な性格を持つていない時、社会に勢力を勝ち得る事は出来ないものである。この性格を信じたからこそ彼等は生きたのだ。この本来の性格を持つた思想というわが文壇空前の輸入品を一手に引受けて、彼等の得たところはまことに貴重であつて、これも公式主義がどうのこうのという様なつまらぬ問題ではないのである。

成る程彼等の作品には、後世に残る様な傑作は一つもなかつたかも知れない、又彼等の小説に多く登場したものは架空的人間の群れだつたかも知れない。しかしこれは思想によって歪曲され、理論によって誇張された結果であつて、決して個人的趣味による失敗乃至は成功の結果ではないのであつた。

わが国の自然主義小説はブルジョア文学というより封建主義的文学であり、西洋の自然主義文学の一流品がいその限界に時代性を持つていたに反して、わが国の私小説の傑作は個人の明瞭な顔立ちを示している。彼等が抹殺したものはこの顔立ちであつた。思想の力による純化がマルクシズム文学全般の仕事の上に現れている事を誰が否定し得ようか。彼等が思想の力によって文士気質なるものを征服した事に比べれば、作中人物の趣味や癖が生き生きと描けなかつた無力なぞは大した事ではないのである。

問一 傍線部(一)「文学界の混乱」とは、どのようなことを指していると考えられるか、簡潔に説明しなさい。

問二 この文章での筆者の「マルクシズム文学」に対する文学史的評価について、具体的な作家名・作品名を挙げながら、あなたの考えを述べなさい。

研究指導 教員名（ ）	
受験番号	
氏 名	

早稲田大学大学院教育学研究科

博士後期課程 一般・外国学生入学試験解答用紙

科目名 資料解読

【教科教育学専攻（国語科教育学・国語科内容学）】

大学記入欄

問題番号

←

裏面に続く

←

← 裏面を使用する場合ここから記入すること

←

↑ 111616 ↑

↑

教員名 ()

--

--

博士後期課程 一般・外国学生入学試験解答用紙

【教科教育学専攻（国語科教育学・国語科内容学）】

大学記入欄

問題番号

裏面に続く

←

← 裏面を使用する場合ここから記入すること

←

↑ じじあど

↑